

くまもと面白漫遊記

～前島広報副委員長・佐藤委員のおすすめのこの町・この大～

No.19

芦北地区

田舎へのこだわり！農家が主役！ 温泉センターからの出発 ～芦北町大野温泉センターの取り組み～

ここには、日本の原風景がある。
日本人の誰もが抱く、故郷のぬくもりがあり、
味があり、温泉がある。
それが大野。
決して、期待を裏切らない田舎がある。

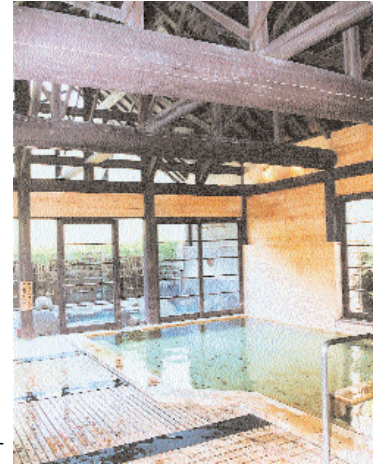
農家の人がいかに創る力があるか、
大野地区の取り組みは、それを証明している。
温泉センターは、地区活性化の拠点であって
目的ではない、そこにこの温泉センターの価値が
あるのだ。

故郷に帰ってきたような…。
その言葉が大野の良さを知ったりピーターたちの
賛辞なのである。



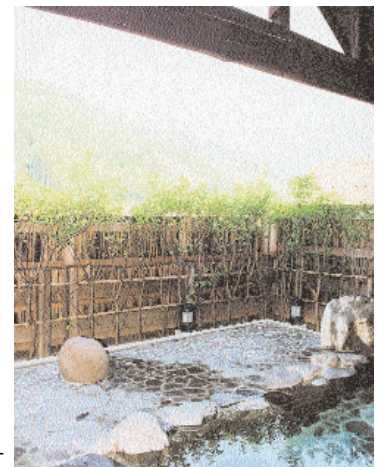
大野温泉センター（芦北郡芦北町）

芦北町大野地区、海の町芦北のイメージを持つ人には、想像もできない緑あざやかな山間の集落がある。春の景色の中でゆっくりとした時間が流れるのを感じながら、県道27号を走ると、地区のシンボルのように堂々とした大きな瓦葺きの建物が見えてくる。大野温泉センター、平成13年4月にオープンし、2年間で延べ50万人の来客数を誇る人気の施設である。そのうち4割がリピーター(再訪者)というから、その人気は本物だ。



温泉センター

この山間の、わずか620戸の集落になぜ、それほど多くの客が訪ねてくるのだろうか。もちろん、温泉施設や併設した物産館に魅力があるのだが、大野温泉センターは、それにとどまらない可能性に満ちた大野地区ならではの“こだわり”があったのだ。ここによく足を運ぶという地元の前島広報副委員長(前島建設株式会社)と佐藤一夫広報委員(株式会社 佐藤産業)は、その成功の根底に地区の全世帯代表者で組織する大野温泉管理組合の掲げるテーマと取り組みを挙げる。



温泉センター

懐かしくて、美味しくて、気持ちいい…。 大野のあたたかさを演出しているのはすべて地元の人々

大野温泉センターには、総ヒノキ風呂が人気の温泉施設と物産館「森のととと」、田舎料理の食事処が併設されている。そのどれもが明治時代のレトロ調の雰囲気漂わせていて、入った途端、年配者には懐かしさがこみ上げてくるだろう。温泉センターが象徴する〈大野地区らしさ〉が、建物にも表されている。今回、施設を管理運営する「大野温泉管理組合」の告本正継組合長、蓑田慎司さん、物産館に野菜や加工品を出荷している「大野温泉管理組合出荷部会」会長の松崎 登さんにお話をうかがった。



食事処



物産館

佐藤委員 Q：今年の4月でまる2年、お客さんも順調のようですが温泉センターの運営はどのように？

告本組合長 A：芦北町が総事業費8億7900万円で施設を整備し、温泉とグラウンドゴルフ場については大野温泉管理組合と委託契約を結び、管理運営をしています。

物産館と食事処は管理組合が町から借りて運営しています。

温泉管理組合は、地区全世帯620戸の代表者で組織されていて、各部会も合わせすべて大野地区の人が関わっています。

佐藤委員 Q：「部会」の皆さんが頑張っておられるようですね？

告本組合長 A：物産館には出荷部会（120人）の方が新鮮な野菜や手づくりの惣菜などを出され、人気を博しています。

松崎さんたちが頑張っておられます。

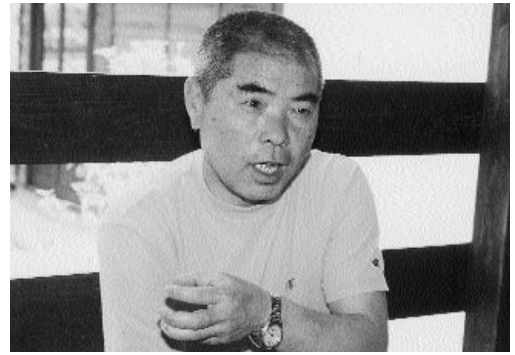
佐藤委員 Q：出荷部会会長の松崎さん、物産館が人気で大野温泉センターの完成後、暮らしが変わったのでは？

松崎さん A：最初は不安でした。客は来るのか、売れるのか…。

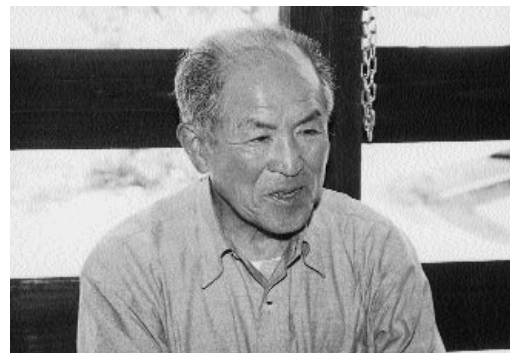
お客さんが次第に増えてきて、朝7時30分ころにはお客さんが来ていることもあり、驚きます。

農林業をしていますが、忙しくて山に行けなくなりましたね。

私は「わらびもち」を毎朝4時からつくり、出していますが売れると励みになる



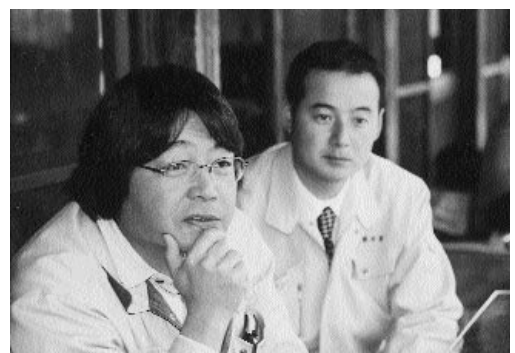
告本組合長



松崎さん



蓑田さん



前島副委員長、佐藤委員

し、いろんな人が来ると勉強になります。出荷部会のみんなには「ここが自分の店」という意識をもってと厳しく言っています。

出荷している人では、今、月平均30万円は売り上げている人もいます。

備考) 松崎登さんは、地元の佐敷諏訪神社に約600年間にわたり奉納されている「わらびもち」を商品化、黒砂糖のなつかしい風味で人気商品となっている。



佐藤委員 Q：出荷部会の皆さんの姿勢、意識が商品に反映されているんですね。客にはすぐ分りますよ。

食事処も、どの料理も美味しくて、しかも、バイキング方式で人気がありますね。

告本組合長 A：食事処は、特産品開発部会員（10人）であるスタッフが、部会で研究したふるさとの味を中心に、その日採れた旬のものを料理しています。素朴な郷土料理を味わってもらっています。



蓑田さん 接客に慣れるまでと思い、バイキング形式にしたところ、これが逆に評判よかったです。

特産品開発部会が月に1回程勉強会を開いて、メニューを考えています。昨年12月には「第1回水俣芦北ふるさとの味コンテスト」を開催しました。その入賞作品を後世に残したい料理として、メニューとして出したいと思っています。



グランドゴルフ

そうした生活文化の伝承にもつながって
いるんです。

告本組合長 A：まあ、田舎の時間、雰囲気、味を感じて
くれればいいんです。
田舎のあたたかさを感じてくれれば…。

佐藤委員 Q：雇用の場もできましたね？

告本組合長 A：職員が21人。パートの方が21人。ほ
とんどが地元の方です。
管理組合の収支は黒字です。

皆さんの話は、常に何気ない。その何気なさが「あたた
かさ」に通じる。大野のありのままの田舎が受けているの
だ。懐かしく、美味しく、気持ちいい、大野のあたたか
さを演出しているのは、間違いなく、温泉管理組合の方であ
り、松崎さんであり、そして、大野地区のすべての人たち
なのである。



温泉センター全景



物産館内部

【大野温泉センターの概要】

熊本県芦北郡芦北町大字天月1000 TEL0966-61-7300

毎週火曜日休館（祝日の場合は翌日）

●温泉【おおの湯】

ヒノキの大浴場・露天風呂・サウナ・家族風呂（五右衛門・ヒノキ・岩風呂）。

大浴場は総ヒノキ風呂。レトロ調の館内には裸電球がともっている。

温泉利用時間 午前11時～午後8時（土・日・祝日は午前10時～午後9時まで）

利用料金

大人（中学生以上）500円（町内300円）

子供（小学生）300円（町内200円）

子供（3歳以上）200円（町内100円）

●大野物産館【森のとととと】

地元で採れた新鮮な野菜、米、農家の皆さんがつくる手づくりの饅頭、惣菜などが並び。

●食事処

季節の山菜や地元の食材をふんだんに使ったメニューが二十品程並びふるさとバイキングが人気。

ふるさとバイキング時間 午前11時30分～午後2時

温泉センターは目的ではないんです。 大野地区全体の活性化、都会の人がくつろげる場にしたい…。

佐藤委員 Q：大野地区の皆さん全員がこの大野温泉センターを中心に個性を発揮されているんですね。

さて、もう一つ、重要な「事業部会」がありますか？

告本組合長 A：そもそも、温泉センターをつくるのが目的ではなく、目指しているのはこの施設を核とした、地区全体の活性化です。

大野を「グリーンツーリズム」の場にしようというのが私たちの出発点なんです。

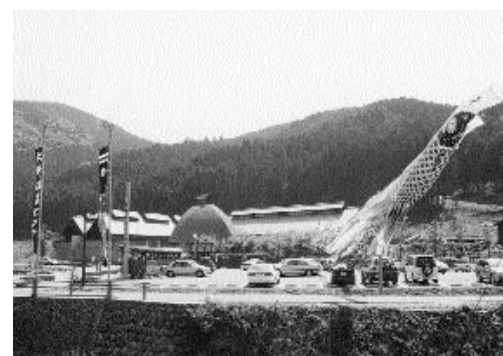
「都会の人のくつろぎの場」として、大野を活性化させたいと思ってます。

蓑田さん A：その活動が事業部会です。去年は、いろいろな農業体験をするイベントを実施しました。

とうもろこしオーナー、椎茸のコマ打ち、棚田での稲刈り体験など。

地元をはじめ、八代、出水などいろいろな所からお客さんが来てくれました。

夏には「わんぱく学級」を行っています。廃校になった校舎をを利用して、川遊び、竹細工などを子供たちに体験してもらうもので、今年で3回目です。



前島副委員長 Q：宿泊施設がないのは？

告本組合長 A：あえて宿泊施設をつくらないんです。

これからは民泊を利用するようにしたいと考えています。

つまり、大野地区全体が一つのホテルとして考えています。

ここ大野温泉センターを玄関、ロビーですね。各民家が部屋です。

魚釣りや稲刈りを各民家で体験してもらうんです。

蓑田さん A：そうして、都会の人に親戚になってもらうんです。

大野が「心の故郷」になれば…。

それが大野の「グリーンツーリズム」です。

佐藤委員 Q：なるほど。それが皆さんの「田舎へのこだわり」ですね。

蓑田さん A：農家の人には、つくる能力があった。

だから、農家の人を表舞台にどんどん引き出すことができるのです。

農家の方を主演にしたいと思います。

告本組合長 A：農家の皆さんは、ふれあいたいという気持ちがあるんです。もっともっと表に出ていただき、自慢をしてもらおうと思います。

佐藤委員 Q：最後に、建物について教えてください。

蓑田さん A：ヒノキ丸太、昔ながらの塗料など使って、明治時代の民家の雰囲気を出し、館内は木の感触を感じてもらうため、素足で歩いてもらっています。

わが家に帰ってきたような、そんな気持ちを持ってもらえたらと思います。

田舎の良さにふれる時間の尊さを感じて

前島副委員長・佐藤委員・取材を終えて

大野温泉センターには、日本人が日本人として生きていた時代を思い起こさせてくれる時間、空間、食があると言っても過言ではありません。

食事処のバイキングを食べていると、グラウンドゴルフを終えた年配の方々が「ここは落ち着くね。」という声。そんなに離れていない所から来られたようだが、この雰囲気を味わえるのは珍しいようだ。今や正真正銘の田舎は貴重なものなのかもしれません。施設だけでなく、地元の皆さんの心づかいや挨拶の心が心に染み入るのです。

「都会の人に地区の人と親戚になってもらう」という考え方に大野地区の可能性を感じました。シャイな農家の人々が都会の人を受け入れ、心からの付き合いが始まると、もっともっと大野の良さが見つかる気がしてきます。農家が主役、田舎へのこだわり、これからも持ち続けて、居心地のいい場所であり続けてください。

芦北最新情報

芦北町海浜総合公園にゾーブがお目見え！

皆さん、ゾーブって知ってますか？ローラージュやスケートを楽しめる芦北町の海浜総合公園に新しいスポーツがお目見えしました。その名は“ゾーブ” [Zorb]。

ニュージーランド生まれのアトラクションスポーツで日本では珍しいスポーツです。

球体（外球3.2m 内球1.8m）の中に入り、135メートル、斜度平均12度の天然芝コースを転がっていく体験は迫力満点！

乗り込む球体には、ハーネスで体を固定して転がるハーネスタイプと球体の中に水を入れて自由に動くウェットタイプがあり、どちらも今までにない未知の体験ができます。ぜひ、お試しください！

芦北町海浜総合公園

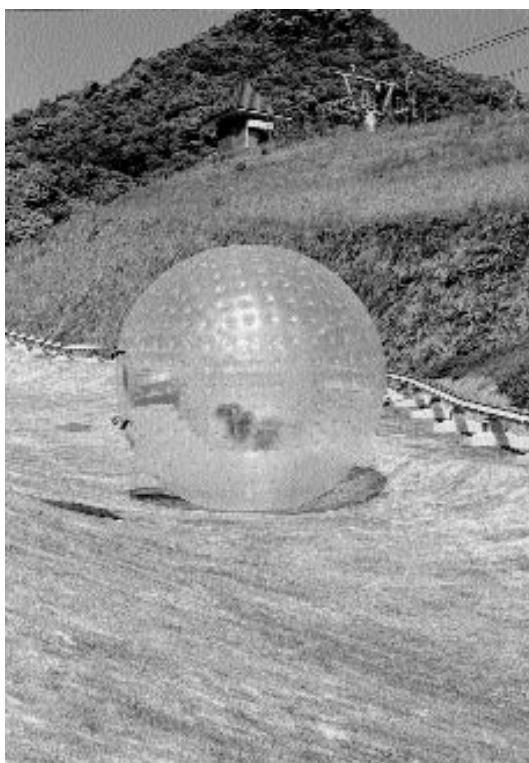
芦北郡芦北町大字鶴木山1400（鶴ヶ浜ビーチ）

TEL0966-82-5588

利用時間 夏期（4月～10月）午前10時～午後6時

休園日 毎週月曜（祝日の場合は翌日）

ゾーブ 1回券 大人600円 子供400円



ウェットタイプ



ハーネスタイプ